



外国人技能実習制度の“今”を伝える

# iBridge

アイブリッジ通信



アイブリッジ協同組合では、新型コロナウイルス感染症への対策として、「事前に実習生・職員全員のPCR検査」を実施し、「陰性」の場合にのみ配属・訪問することを徹底しています。受入れ先の皆さまに安心していただけるよう、細心の注意と最善の努力を続けて参ります。

## NEWS

新型コロナウイルスの水際対策をめぐり、外国人の全面的な入国制限措置を、緊急事態宣言が解除されたあとも、当分の間継続することが決定されました。これにより、対象国・地域との間での双方向の往来を可能にするスキーム（いわゆるレジデンストラック）により受け入れていた、外国人技能実習生の新規入国も、現在停止されています。ミャンマーでは政変（クーデター）もあり、実習生を受け入れている施設様、お待ちになっている施設様には、ご心配やご不便をおかけしていますが、新たな情報などは随時お知らせします。

## 技能実習候補生とのリモート面接



混迷が続くミャンマー情勢ですが、行政手続きに遅れなどは見られるものの、技能実習にかかわる制度や手続き自体に変更はなく、実習生の新規募集なども、現地送出国でこれまで通りおこなっています。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響による各国の入出国規制により、現在はリモートで採用面接を行っています。

先日も、技能実習生の受入れを希望する埼玉県の特別養護老人ホーム様と、ミャンマーの送出国に集まった技能実習候補生たちとの間で、ZOOMでのリモート面接を行いました。中には日本語の歌を披露する候補生もいるなど、明るく元気で意欲溢れる人材が集まり、また、日本への関心の高さもうかがい知ることができました。内定を得ることができた候補生は、この後数か月間日本語や介護技術を勉強し、日本へ出発することになります。



通常は、候補生と実際に顔を合わせて、志望動機や経験、人柄、意気込みなどを確認していただけるよう、現地での面接をおすすめしていますが、新型コロナウイルス感染症が落ち着くまでは、リモートでの面接をお願いしています。

## ミャンマー情勢について

アイブリッジ協同組合では、引き続き複数の現地ソースから独自ルートで情報収集を行っています。

混迷を続けるミャンマー情勢ですが、現在の軍事政権が打倒され、クーデター前の状態に戻る可能性は低いとみられています。また、内戦の可能性も一部で指摘されていますが、少数民族武装勢力は、軍に対する一定の抑止力になるとは考えられるものの、自分たちの実効支配地を守ることが主体になるのではないかと考えられています。現在の軍事政権は、経済重視で海外との協調を模索しながら、時間をかけて緩やかに民主主義へ移行することを目指していくとみられます。

在留外国人の帰国も増えているようですが、背景にあるのは、市中の混乱や治安の悪化はあるものの、軍事政権に抗議する CDM 運動(不服従運動)の継続による経済活動の停滞が、主な要因とみられます。一方で、この経済の低迷による雇用環境の悪化により、今後海外に職を求める需要はさらに増加すると考えられることもあり、日本での技能実習を志望する優秀な人材も増加するのではないかと考えられます。また、技能実習制度自体に何等かの影響が及ぶことは、ほぼないと見られています。



## 介護技能実習評価試験について

介護技能実習評価試験は、実習の各段階で技能の修得度合いを確認するために実施されており、実習生は必ず受検する必要があります。また、実習生が技能実習の次の段階に進むためには、この試験に合格する必要があることや(例:技能実習1号から技能実習2号に進む実習生は、初級試験の合格が必要)、実習実施者が優良認定を得るための配点表で試験の合格実績が大きな比率を占めていることから、「全員合格」をめざして実習を進めましょう。

### 試験内容

試験の名称	対象者	試験の内容	
初級試験	技能実習1号(1年目)	実技(必須)	学科(必須)
専門級試験	技能実習2号(2~3年目)	実技(必須)	学科(任意)
上級試験	技能実習3号(4~5年目)	実技(必須)	学科(任意)

※ 専門級と上級試験において、学科試験の受検は制度上任意とされていますが、優良な実習実施者に認定されるための加点項目の一つですので、実技と学科両方の受検をおすすめします。

### 試験時期

随時行われますが、初級試験は6か月、専門級試験は24か月、上級試験は48か月以上の実務経験(入国後講習の期間は含まない)が受検資格とされています。

### 試験場所

技能実習生が勤務している事業所・施設に、試験評価者が訪問して試験を実施します。

### 実技試験

受検者が利用者に対して行う身体介護業務および安全衛生業務を評価する試験です。試験課題は、毎年4月に、各級の試験範囲の中から複数の課題を選定し、公開されています。

### 学科試験

ペーパーテストで、必須業務、関連業務、周辺業務、安全衛生業務の知識が問われます。試験問題は受検者が理解できる程度の平易な日本語(口語体、漢字にはルビを表記)を使用しています。学科試験には、過去の試験と類似の問題が毎年多く出題されますので、過去問をしっかり学習することが、合格への近道となります。

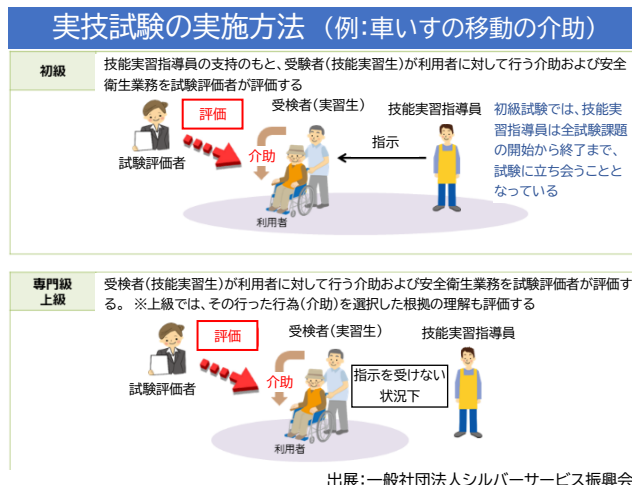
### その他(試験の情報)

実技試験の課題や学科試験の過去問などは、試験実施機関である一般社団法人シルバーサービス振興会のHPに掲載されていますので、参照をお願いします。

<http://www.espa.or.jp/internship/example/>

※組合から、独自の過去問サンプル集も出しています。

受検手続きはアイブリッジ協同組合で行います。初級試験は、入国月から6か月目までに受検申請書を提出し、10か月目までに受検(例:1月入国者→7月受検申請書提出→10月受検)、専門級は、入国月から24か月目までに受検申請書を提出し、30~34か月目の受検を目途としております。不合格の場合には再受検(一回のみ可)も必要となるため、余裕をもって準備されることをおすすめします。詳細は、組合担当者にお問合せください。



**学科試験の実施方法**

試験の名称	出題形式	問題数	試験時間
初級試験	真偽法 (○×式)	20問	60分
専門級試験	真偽法 (○×式)	30問	60分
上級試験	多肢 選択法	50問	90分



## 実習生紹介: YAN PAING HTUN さん

ヤン パイン トウン 国籍:ミャンマー

兵庫県淡路市 医療法人社団配属 2020年12月入国)

日本人の好きなところは時間やルールを守ることと、小さいミスでも必ず謝ることです。

日本で一番行きたいところは、日本のイメージである富士山とディズニーランドです。今は新型コロナウイルス感染症でどこにも遊びに行けません。そして、7月の日本語能力試験(JLPT)と介護評価試験のため、毎日勉強しなければなりませんので、外出を控えています。



職場の先輩たちは、みんな親切でなんでも丁寧に教えてくれます。専門用語など分からないことがあったら、分かるまでやさしい日本語で説明してくれます。入職したばかりの時は仕事や日本語に慣れなくて、大変でしたが、今はだいぶ慣れてきました。お茶出し、食事介助、誘導、移動介助、ゴミ捨て、おむつ交換、シーツ交換、体位交換などは任せてもらえるようになりました。

病院の皆様のおかげで、生活面の問題はまったくありません。私はイスラム教徒なので、病院の給食について、最初は心配しましたが、私も食べられるように作ってくれました。寮にも生活必需品を十分に用意していただいているので、とてもありがたいです。仕事にも生活にもみんなのサポートや応援をいつもいただいて、毎日やる気満々で、楽しく働いています。

3年間の実習後は、日本で習得した技術や知識を活用して母国の発展に貢献するつもりです。ミャンマーで日本語学校を設立して、日本語と介護職に興味がある若者たちをサポートしていこうと思います。

## 御参考

公式ホームページ	Facebook	Facebook
アイブリッジ協同組合 (日本語)	アイブリッジ協同組合訓練センター (日本語)	ミャンマー人技能実習生の集い (ミャンマー語)
技能実習制度や組合の概要など	入国後講習や生活の様子など	実習生などの情報交換など
		
<a href="https://www.ibridge.or.jp">https://www.ibridge.or.jp</a>	<a href="https://www.facebook.com/ibridge.trainingcenter">https://www.facebook.com/ibridge.trainingcenter</a>	<a href="https://www.facebook.com/ibridge.or.jp">https://www.facebook.com/ibridge.or.jp</a>



### アイブリッジ協同組合

所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8 第22中央ビル9F

TEL：03-6228-4196 FAX:03-6228-4896

URL：<https://www.ibridge.or.jp> MAIL: info@ibridge.or.jp



2021年4月20日発行